

過去の水害

洪水、土砂災害など、本市はこれまでに多くの災害により被害を受け、復旧してきました。これら過去の災害を知ること、どのように注意・行動すべきか考えてみましょう。

昭和61年 台風第10号 1986年8月4～5日

福島県では、昭和61年8月4日から5日にかけて、台風第10号から変わった温帯低気圧による豪雨となり、白河地点における2日間の雨量が241.5mmに達する大雨となりました。そのため、阿武隈川上流の水位は4日夕方から急激に上昇し、福島県内に甚大な被害をもたらしました。

須賀川市でも、須賀川水位観測所(阿武隈川)で8.55mの水位を記録し、床上浸水が293棟、床下浸水が168棟となり、44人が救助されました。



平成10年8月末 豪雨 1998年8月28～31日

福島県では、平成10年8月28日から31日にかけて、台風第4号の影響を受けた前線の通過により、阿武隈川上流域を中心に総雨量1,000mmを超える大雨となりました。白河地点における2日間の雨量は342.5mmに達し、内水はん濫による被害が支川と本川合流付近に集中しました。

須賀川市でも、須賀川水位観測所(阿武隈川)で8.17mの水位を記録し、床上浸水が193棟、床下浸水が84棟となり、139人が救助されました。



阿武隈川、釈迦堂川 合流点

平成14年 台風第6号 2002年7月10～11日

台風第6号が勢力を保ったまま北上し、平成14年7月10日から11日にかけて福島県内全域に大雨をもたらしました。白河地点における2日間の雨量は276mmに達し、福島県内では80か所の浸水被害が発生しました。

須賀川市でも、滑川と阿武隈川の合流点で河川がはん濫し、104棟が浸水しました。



滑川、阿武隈川 合流点 滑川

平成23年 台風第15号 2011年9月21～22日

台風第15号が平成23年9月21日から22日にかけて日本列島を縦断し、白河地点における2日間の雨量は267.5mmに達しました。

須賀川市でも、須賀川水位観測所(阿武隈川)で8.65mの水位を記録し、阿武隈川や釈迦堂川は氾濫危険水位を超え激しい内水はん濫に見舞われました。床上浸水が169棟、床下浸水が82棟となり、14人が救助されました。



市民スポーツ広場 付近 阿武隈川、釈迦堂川 合流点

令和元年台風第19号(東日本台風) 2019年10月10～13日

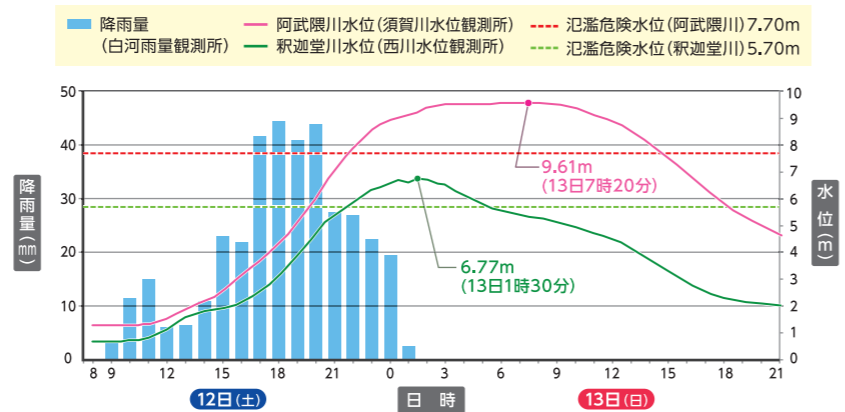
大型で猛烈な勢力の台風第19号は、令和元年10月10日から13日にかけて東日本を中心に強い雨を降らせ、関東甲信地方、静岡県、新潟県、東北地方の多くの地点で3、6、12、24時間降水量が観測史上1位を更新しました。気象庁は12日から13日にかけて、13都県に大雨特別警報を発表し最大級の警戒を呼びかけましたが、全国では8万棟以上の住家が浸水し、負傷者は380人、死者・行方不明者は102人におよびました。

福島県内では11日から雨が降り始め、12日夕方から13日未明にかけては非常に激しく雨が降り、県内の広い範囲で11日15時から13日6時までの総雨量が200mm以上の大雨となり、白河地点では、17時間の降雨量が368.5mmを記録しました。このため、住家の全壊が1,351棟、半壊11,513棟、一部損壊4,408棟、死者32人という甚大な被害を受けました。

須賀川市でも、須賀川水位観測所(阿武隈川)で9.61mを、西川水位観測所(釈迦堂川)では6.77mの最高水位を記録し、全壊155棟、半壊674棟、一部損壊233棟となりました。また、2人の方が犠牲になり、183人が救出される過去の災害に例を見ない甚大な被害を受けました。



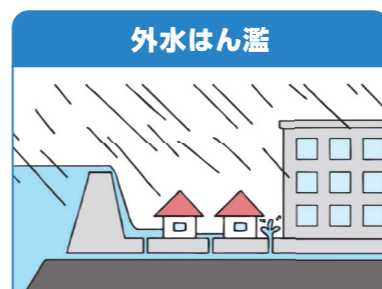
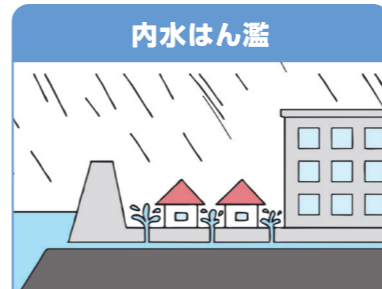
2019.10.13 国土地理院撮影



水害発生のおくみや形態

洪水

洪水とは、河川が著しく増水することをいいます。洪水による被害として、家の周辺などに降った雨で水浸しになる「内水はん濫」と、河川からの水があふれる「外水はん濫」があります。



平常時

● 降った雨は排水路などを通して河川に流れています。

↓ 集中的な豪雨があると…

内水はん濫(ないすいはんらん)

● 雨の量が排水路の排水能力を超えたり、排水先の河川の水位が上昇したりすることで、水が流れずたまってしまい、浸水します。

局地的に集中的な降雨(いわゆるゲリラ豪雨)があると、たとえ時間が短くても、内水はん濫が起こることがあります。内水はん濫は、河川の近くでない場所でも起こりますので、注意が必要です。

↓ さらに強い雨が降ったり、降雨が長時間連続したりすると…

外水はん濫(がいすいはんらん)

● 大雨によって河川の水位が上昇し、堤防を越えて水があふれたり、堤防が決壊したりして浸水します。

外水はん濫は、一旦はん濫が起きるとあふれる水の勢いが強く、短時間のうちに広範囲に甚大な被害が広がりやすいのが特徴です。河川の水位の上昇は、上流側で降った雨の影響も大きく受けますので、流域全体の降雨状況にも注意しましょう。

内水はん濫と外水はん濫は、同時に起こる場合があります。

洪水浸水深…浸水した場合に想定される水深

浸水深が0.5m(大人の膝)程度でも歩くことが困難になりますので注意が必要です。

早期の立ち退き避難が必要な区域

堤防が決壊した際に家屋を倒壊させるような激しい流れが発生する、または浸水深が3m以上になるおそれがある区域です。避難指示などに従って安全な場所に速やかに避難してください。

洪水浸水深の目安

